

データ 寄託 の 手 引

データ 寄託 の お 願 い と 寄 託 の 方 法

SSJDA

●April 2017●

当アーカイブの構築に当たっては、文部科学省科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付を受けております。（平成 11 年度 502002，平成 12 年度 128051，平成 13 年度 138045，平成 14 年度 148052，平成 15 年度 158053，平成 16 年度 168052，平成 17 年度 178050，平成 18 年度 188056，平成 20 年度 208034，平成 21 年度 218037，平成 22 年度 228032，平成 23 年度 238027，平成 24 年度 248024，平成 25 年度 258026，平成 26 年度 268017，平成 27 年度 15HP7003，平成 28 年度 15HP7003，平成 29 年度 15HP7003）

SSJ データアーカイブ

東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター

所在地	〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
URL	http://csrda.iss.u-tokyo.ac.jp/
e-mail	ssjda@iss.u-tokyo.ac.jp

はじめに	1
I データアーカイブについて	2
II データアーカイブの意義	4
III 寄託のメリット	5
IV 寄託の手続き・データの運用方法	6
V よくある質問	8
様式 個票データ寄託書	11

はじめに

東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターは、我が国における社会科学の実証研究を支援することを目的として、SSJデータアーカイブ（Social Science Japan Data Archive）を運営しております。

当データアーカイブでは、我が国で実施された統計調査、社会調査の個票データ（個々の調査票の記入内容。マイクロデータ）を収集・保管し、学術目的での二次分析のために1998年4月から利用者に提供しています。

調査機関の皆様がお持ちの個票データの寄託を常時お待ちしております。趣旨をご理解の上、是非、ご協力をお願い申し上げます。

〔社会科学研究所（社研）〕

敗戦後の東京大学再生のための最初の改革として、当時の南原繁総長のイニシアティブによって、1946年8月、勅令第349号によって東京帝国大学に附置されました。現在は、比較現代法、比較現代政治、比較現代経済、比較現代社会、国際日本社会の5部門、および社会調査・データアーカイブ研究センターによって構成されております。

〔社会調査・データアーカイブ研究センター〕

1996年5月に社会科学研究所の附属機関として設立されました。研究の実証データと研究関連情報を蒐集・作成して提供すること、国際的な研究ネットワークを形成するための情報基盤を構築することを目的として、「調査基盤研究分野」「社会調査研究分野」「計量社会研究分野」「国際調査研究分野」という4つの研究分野を持ち、データアーカイブの運営とともに、独自のパネル調査（JLPS）の実施、日本版総合社会調査JGSSの共同企画実施（2012年度まで）、ICPSR国内利用協議会のハブ機関等を担っています。2010年4月より文部科学大臣による共同利用・共同研究拠点の認定を受けております。

I SSJデータアーカイブについて

調査個票データを学術目的のために提供する機関です

SSJデータアーカイブは、統計調査、社会調査の個票データ（個々の調査票の記入内容、マイクロデータ）を収集・保管し、その散逸を防ぐとともに、学術目的での二次的な利用のために提供する機関です。

欧米諸国のほとんどで設立されていますが、我が国にはこれまで存在しませんでした

データアーカイブは、アメリカのICPSRやイギリスのUKDA、ドイツのGESISなどを代表に、多くの欧米諸国で設立されており、社会科学の実証研究、教育に活用されています。我が国にはこれまで組織的なデータアーカイブがなかったため、多くの調査が実施されているにもかかわらず、それらの個票データは、当初の集計が終わるとともに徐々に消えていくのが現状でした。

SSJデータアーカイブの概要

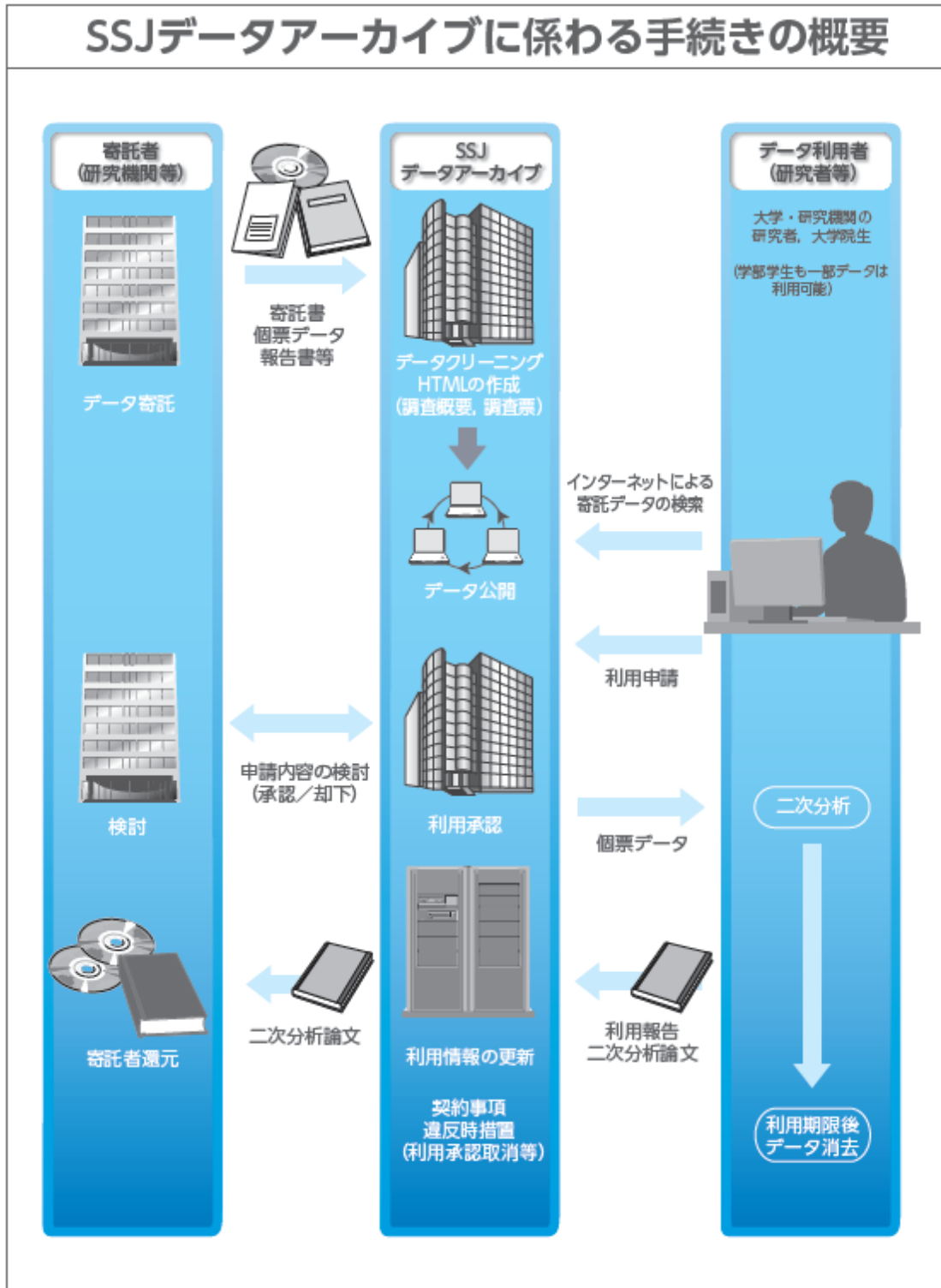
東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターは、我が国における社会科学の実証研究を支援することを目的として、SSJデータアーカイブを構築し、1998年4月から個票データの提供を行っております。

ベネッセコーポレーション、リクルートワークス研究所、家計経済研究所、日本生産性本部、朝日新聞社、第一生命経済研究所、ニッセイ基礎研究所、日本政策金融公庫総合研究所、労働政策研究・研修機構、日本家族社会学会、経済産業省、内閣府、厚生労働省、NHK放送文化研究所など多くの研究者・機関からデータを寄託していただいております。

SSJデータアーカイブの運営状況

年度	新規公開データセット数 () 内は調査数	収録調査DB 検索件数	公開データリスト・ アクセス件数	利用申請 件数 (申請者数)	利用申請 研究者数	提供データ セット数	発表論文・著書 数	うち学位 論文数
1998	276 (220)	—	—	11	14	22	3	1
1999	91 (60)	—	—	20	33	72	4	3
2000	42 (32)	—	—	51	74	147	3	0
2001	50 (22)	—	—	114	278	545	19	3
2002	40 (28)	4,581	—	222	489	796	37	2
2003	77 (58)	31,014	—	224	613	1,129	25	6
2004	101 (76)	40,583	—	343	802	1,735	56	12
2005	95 (65)	38,770	—	335	1,036	2,527	91	18
2006	185 (78)	43,011	—	366	944	1,641	61	19
2007	208 (94)	53,986	—	463	1,208	1,851	86	15
2008	56 (39)	43,613	5,406	481	1,434	2,165	113	30
2009	66 (62)	40,943	10,255	606	1,756	2,784	116	45
2010	61 (51)	41,425	15,425	666	1,354	1,630	135	28
2011	70 (50)	40,984	16,190	774	2,093	1,812	169	50
2012	74 (66)	40,738	16,691	855	2,567	2,352	145	74
2013	94 (61)	44,553	19,368	892	2,129	2,754	154	80
2014	96 (55)	68,027	27,799	976	2,867	5,921	220	108
2015	253 (89)	76,889	37,198	1,263	3,216	5,846	266	150
2016	83 (61)	140,206	35,637	1,091	4,016	6,980	191	128

SSJデータアーカイブに係わる手続きの概要



SSJデータアーカイブは、2001年2月にデータアーカイブの国際的な情報交換の組織であるIFDO（International Federation of Data Organization）へ加盟が承認され、東アジア諸国では、SSJデータアーカイブが最初の加盟機関となりました。2009年度以降は、IFDOの理事会メンバーを務めています。

2006年9月には、データアーカイブの運営に対して、日本統計学会より、第2回日本統計学会統計活動賞を受賞しました。

II データアーカイブの意義

個票データの二次分析により、多くの新しい研究が可能となります

統計調査、社会調査からは、通常、多くの質問項目に対する回答が得られます。これらをすべて組み合わせた集計や分析は極めて膨大になるため、一般には調査実施者の問題意識の下での、限定的な集計や分析に留まります。

ところが、異なった問題意識からは、当然それとは異なる集計や分析のニーズがあります。従来ですと、既存の個票データを二次的に利用することは考えられないことでしたので、新しい調査を自分で行うしかありませんでした。

データアーカイブに個票データが寄託され、二次分析ができるようになると、既存の調査データを用いて、従来できなかった新しい研究が展開します。

多数の方の努力の成果である個票データを有効活用でき、調査を受ける方の負担を減らします

統計調査や社会調査は多くの調査関係者の努力や、調査対象となった方の協力を得て行われます。多額の経費と時間をかけて得られた個票データを有効活用することが望まれます。データアーカイブへの寄託を通じて、研究利用がされることで、従来死蔵されていた社会調査が有効活用されます。

また、もし既存の調査が利用できないために新しい調査を実施したとすれば、経費や時間が必要になるだけでなく、調査を受ける方の負担を増やし、ひいては、被調査者の調査に対する協力度を低下させるおそれもあります。データアーカイブを利用した二次分析が進展することで、研究機関の調査が抑制されれば、結果として、調査を受ける方の負担を減らすことにも繋がります。

我が国の統計調査、社会調査の質の維持・向上に役立ちます

個票データの二次分析が可能になると、新しい調査を企画する際に、既存の調査との比較可能性について検討したり、調査票にどのような質問事項を入れるべきか参考にしたりすることができます。

このように、個票データの二次分析は、今後の我が国の統計調査、社会調査の水準の向上にも間接的に寄与するものです。

Ⅲ 寄託のメリット

個票データを使える形で保管します

アーカイブに寄託された個票データは、二次利用可能な形式に整理して保管いたします。定期的なファイルのバックアップ、震災等に備えたデータディスクによる遠隔地での保管等、バックアップにも万全を期しており、データアーカイブは、寄託者にとって再び必要になる時に備えた“保険”にもなります。

個票データそのものの紛失だけでなく、符号表の散逸や担当者の異動などといった理由から、「データをまた使いたいのにはできない」ということがしばしば見受けられます。将来、寄託された調査を寄託者ご自身で再分析される際も、もちろんお使いいただけますので、ご活用ください。

新しい視点から調査を見直すことができます

SSJデータアーカイブでは、その利用者が二次分析の結果、論文を作成した場合、その論文1部を寄託者にお届けすることになっています。

新しい視点から調査を見直すことにより、調査実施者も知らない、隠れた価値を発見したり、将来の調査の企画に参考になることに気が付いたりすることがあります。

寄託いただいた機関に所属する方は、 SSJデータアーカイブの個票データをご利用いただけます

原則、SSJデータアーカイブの利用は、大学や公的研究機関に所属する研究者の方に限定されておりますが、寄託いただいた機関に所属する方は、SSJデータアーカイブの個票データを利用可能としています。

ただし、利用は学術目的の二次分析に限られます。また、利用を希望する調査の寄託者またはSSJDAの承認を得ることが必要です。

調査の意義が広く認められます

個票データがSSJデータアーカイブに寄託されると、SSJDAウェブサイトに調査の概要が掲載されますので、多くの方にその調査について知ってもらうことができます。（個票データは、承認手続きを経てから提供。）

また、個票データを利用する論文にも、調査名や寄託者が記載されますので、その調査の意義が広く認められることとなります。

IV 寄託の手続き・データの運用方法

ご寄託から利用者へのデータの提供，利用報告までは以下のように行われます。
なお，学術目的であることに鑑み，寄託に要する経費については，寄託者，SSJ
データアーカイブ，相互に無償としています。

1 資料をSSJデータアーカイブへ提供

アーカイブでは提供いただいた資料を基に，個票データを標準的なフォームに
変換するほか，公開用の調査の概要を作成します。

寄託にあたっては，以下の資料等をご用意ください。

■ 寄託書	本手引きの巻末に様式がございます。 ワードまたはPDF形式のファイルをダウンロードしてご記入 願います。(http://csrda.iss.u-tokyo.ac.jp/ssjda_depo.doc) ご寄託くださる調査の英語名がある場合は，そちらもご記入 ください。
■ 個票データ	個票データのファイルは，現在お持ちの形式をそのまま提出 いただいて結構です。 データ受け渡しのためのProselfというシステム（※後述）， もしくはCD-Rなどの記憶媒体の郵送という2種類の方法で受け 付けております。
■ 調査報告書	作業用と利用者閲覧用に【2部】のご提供をお願いしていま す。報告書現物が無く，電子ファイル（ワード文書，PDF文書 など）がある場合は，そちらのご提供をお願いしています。
■ 調査票	報告書に掲載されている場合でも，電子ファイルで頂けます と，当方の作業上大変助かります。
個票データの フォーマット	SPSS形式など，フォーマットを含むデータ形式の場合は不要 です。 テキストデータなどの際，何桁目にはどんな項目が入力され ているかを表す資料の提供をお願いしています。
その他必要な資料	調査報告書には掲載されていない，下記のような資料があれ ば，ご提供をお願いします。 ・設問別単純集計値，符号表（コード表）， ・加重平均用の係数（ウエイト），注意事項 等

（■は必ずご提供をお願いしているものです。）

※Proselfについて

当アーカイブでは、フリーメールのアカウントを使用される方の増加や、セキュリティ面での脅威が懸念される社会状況を鑑み、2012年10月よりデータ受け渡しのためのオンラインストレージシステム、Proself を導入いたしました。

Proself は、SSJデータアーカイブが独自に所有・管理しているサーバを用いて運用しています。Dropbox 等の他社が提供しているオンラインストレージサービスは、運営会社のサーバにデータが保管されるため利用していません。

寄託の際に Proself のご利用を希望される場合は、事前にssjda@iss.u-tokyo.ac.jp宛てにその旨をお知らせください。Proself のサイトのアドレスとパスワードをお送りします。記載されたアドレスにアクセスし、パスワードでログイン後にデータをアップロードしていただければ完了です。

2 データに関する照会、確認

アーカイブでは、提出された個票データを標準フォーム（SPSS形式）に変換し、基礎的な内容チェック、無回答・非該当や多重回答項目の扱いに関する処理等のデータクリーニングを行います。また、調査関係資料に基づいて、調査の概要を作成します。この作業の関係で、アーカイブから質問をさせていただくことがございますが、その際にご協力をお願いします。

また、公開用の調査の概要、調査票、提供用の個票データがまとまったところで、それらの内容を確認していただきます。ご了解の後、SSJDAウェブサイトにて公開いたします（個票データはウェブサイトでは公開しません）。

3 利用申請の承認

データの利用希望者が提出する個票データ利用申請書は、SSJデータアーカイブが受け付けます。

アーカイブは、その都度、寄託者に承認の可否をうかがいます。（寄託書において承認の判断をアーカイブにお任せいただいた場合を除く。）

承認を得た希望者に対してのみ、アーカイブは個票データを提供します。

4 利用者への個票データの提供

承認を得た希望者は、一定の期限の間に限り、当アーカイブのウェブサイトSSJDA Direct を通じてダウンロードによってデータを取得することができます。

※ 従来、郵送により利用者へのデータ提供を行っていましたが、2014年10月から、原則としてダウンロードによる提供をお願いいたしております。これにより、返信用封筒の送付など提供までにかかる手間や時間を大幅に節約でき、利用者の利便性が向上します。なお、利用者への郵送でのデータ提供をご希望の際には、その旨、寄託書へチェックをお願い申し上げます。

5 利用者による二次分析成果の送付

利用者が二次分析の成果として論文等を発表した場合、利用者はアーカイブへ成果を提出します。提出のあった論文等は、アーカイブから寄託者へ送付いたします。なお、すべての利用者が論文等の発表に至るとは限りません。

V よくある質問

個票データを公開したとき、回答者のプライバシーは守られるか

調査回答者のプライバシーを守ることは、データアーカイブの最も基本的な条件です。SSJデータアーカイブでは、データを数値だけの形にする、調査地域を粗く束ねる、など必要な措置を講じて、個々の回答者を識別することが不可能な形式に変換した上で、個票データを利用者に提供することになっています。

また、利用者には、個々の調査対象を特定する分析は行わない旨の誓約を設けています。もちろん、特定が不可能な形式に変換した上でデータを提供するので、そのようなことはできませんが、念には念を入れた措置です。

個票データの公開と回答者のプライバシーを守ることは、両立可能です。

データアーカイブに寄託すると、調査への協力度が低下しないか

最近、人々のプライバシー意識が高まっています。自分の書いた調査票がデータアーカイブに寄託されると、多くの人は不安を感じて調査に協力してくれなくなるのではないかと、というご心配があるかもしれません。

しかし、SSJデータアーカイブは、個々の回答者を識別できるような情報は公開しませんし、利用者も研究者、大学院生に限定し、利用も営利目的ではなく学術目的の二次分析に限定しています。

アメリカやヨーロッパ諸国において、極めて大規模なデータアーカイブが長年にわたって問題なく活動していることからしても、我が国においてご心配されるような問題が生じる可能性はないと考えます。

調査内容の理解不足により、誤った分析をしてしまう危険はないか

方法や定義などについて十分理解している調査実施者が分析するならよいが、そうでない者が個票データを分析した場合、誤った結論を得る危険がある。このような指摘があります。この問題は、二次分析において常に注意しなければならないことです。

諸外国ではデータアーカイブが現実に大規模に活用されている実績から、解決できない問題ではないと、我々は考えています。

SSJデータアーカイブとしては、個票データの誤用がなされないよう、必要な情報を利用者に提供していくとともに、調査内容や調査方法を十分理解して分析するよう指導に努めてまいります。

寄託に当たって仕事が増えることにならないか

寄託すると、個票データの前処理や利用者からの質問で手間がかかるのではないかとのご心配があるかも知れません。

実際には、特殊な例を除いて、個票データのファイルは、寄託者がお持ちのものをそのまま提出いただけます。また、提供する個票データに関する利用者からの質問は、当アーカイブが窓口となり対応します。

アーカイブによるデータクリーニング作業の途中でご質問をすることもありますが、それほどのお手数はかけないで済むと考えています。

公開できない項目があるので、寄託は難しいのではないか

秘密保護の問題や調査機関の営業活動上の理由で、調査の項目の一部は公開できないということがあるかも知れません。そのような場合は、公開できない部分を除いて、寄託していただいて差し支えございません。

また、個票データから一般公開できない部分をSSJデータアーカイブで削除又は加工することも行っております。どうぞご相談下さい。

諸事情により、利用者へ公開することができないかもしれない、公開する時期を決められないため寄託が難しいのではないか

当該調査データを用いた成果物の刊行に時間がかかるなど、すぐに利用者へデータを公開することが難しいご事情があるかも知れません。そのような場合には、ご自由に公開の時期をご指定いただくことができます。

また当アーカイブは、利用者へのデータの提供のみならず、個票データの収集・保管も重要な役割であると考えております。公開を前提とするだけでなく、当面は公開せず保管のみを目的する場合にも、当アーカイブをご利用ください。

SSJDA以外の機関へもデータを寄託したい

より広くデータが活用されるよう、SSJDA以外の機関にもデータを寄託することを検討されることがあるかも知れません。その際には、他機関への提供の前に、一度その旨をご相談いただけますようお願い申し上げます。

当アーカイブでは、ご寄託いただいたデータを、秘匿処理のために一部クリーニングなどの加工を行うことがあります。また、個票データの貸し出しに際し審査を行い利用者の管理を行っております。しかしながら、複数の機関からデータが提供されると、同じ名前でも異なったデータが用いられることになったり、データ利用者の管理が難しくなったりする可能性が高まり、対策が必要となる場合があります。お手数をおかけいたしますが、よろしくお願い申し上げます。

**個票データをせっかく寄託するので、
より多くの人に使ってもらえるようにしてほしい**

上述の通り、SSJDAでは原則、利用者を研究者および大学院生に限定しておりますが、個票データの二次分析を積極的に促進するために、

「教員の指導を受けた大学の学部学生による研究目的の利用（卒論等）」

「教員の指導による教育目的の利用（授業等）」

についても個票データの提供を認める措置を一部データについて取っています。

また、さらに広く利用を促進するために、オンライン上で簡単な分析を行うことができる、「Nesstar」というシステムをご活用いただくこともできます。ただしNesstarでの利用にはアクセス制限がないなど、通常データの貸し出しとは性格が大きく異なります（詳しくは、下記の「Nesstarについて」をご参照ください）。趣旨およびシステムをじゅうぶんご理解の上、ご許可をくださいますようお願いいたします。

以上拡大利用をお認めいただける場合、寄託書の該当する （チェックボックス）にチェックを入れていただくようお願い申し上げます。

※Nesstarについて

Nesstar は、メタデータ閲覧およびオンライン分析のためのシステムです。海外の主要なデータアーカイブで運用実績をもち、SSJDAでも、2012年11月よりNesstarの運用を開始しています。

メタデータとは、調査対象や標本抽出の方法、コーディングなど、「調査データに関する情報・データ」を指し、図書検索における書誌情報に相当するものです。Nesstar は、これらを国際基準にもとづく形で閲覧することができるシステムです。

また Nesstar では、公開データの一部について簡単な分析を行えるオンライン分析システムも導入されています。具体的には、単純集計結果の閲覧、クロス表の作成や相関分析などをオンライン上で行うことが可能です。

こうした機能によりデータの公開性を高め、より広く公共的な利用を促進することができます。2016年4月現在、「東大社研パネル調査」（東京大学社会科学研究所パネル調査プロジェクト）や「JGSS」（大阪商業大学JGSS研究センター）、ベネッセ教育総合研究所「モノグラフ小学生／中学生／高校生」（ベネッセ教育総合研究所）といった寄託データが分析可能なデータとして搭載されています。

Nesstar を利用する際には、学術目的での利用に限ることや成果物を報告することなどについて利用者に誓約を求めており、誓約に同意した場合のみ分析が可能です。ただし、アクセス制限やアカウント登録などは設けておらず、自由にアクセス可能な形で運用しています。この点は、資格および審査をクリアすることが条件となる通常データの貸し出しとは大きく異なります。こうした特性をご理解の上、Nesstar の搭載許可をご検討くださいますようお願い申し上げます。詳しくは、下記サイトをご参照ください。

・Nesstar の概要

<http://csrda.iss.u-tokyo.ac.jp/international/ddi/nesstar/>

・メタデータ閲覧・オンライン分析用ページ

<http://nesstar.iss.u-tokyo.ac.jp/webview/>

個票データ寄託書

東京大学社会科学研究所附属
社会調査・データアーカイブ研究センター
SSJデータアーカイブ 御中

寄託者名 _____

寄託者名の
英語表記 _____

寄託年月日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

寄託調査名 _____

調査名の
英語表記 _____

*英語名がない場合は、「なし」とご記入ください。当アーカイブにて英訳の上、公開させていただきます。

標記調査データの所有者として、個票データ（個々の調査票の記入内容）を関係資料（調査報告書、調査票様式、データフォーマット等）と共にSSJデータアーカイブ（以下、「アーカイブ」と言う。）へ、下記の条件で寄託します。

記

1 個票データの扱い（を付けて下さい。）

- 学術目的での二次分析に提供する。 →
- 寄託者が承認を行う。
 - アーカイブが承認し、半年に一度、利用者リストを提出する。
 - アーカイブが承認し、利用者リストの提出も必要ない。
- また、教育目的（授業・学部生の卒論等）での使用も認める。
- また、メタデータ閲覧・オンライン分析システム **Nesstar** での利用も認める。
(※拡大措置の詳細については、「寄託の手引き」10ページをご参照ください。)
- 提供しない設問がある、その他の利用条件を設定するなどの場合、下欄にご記入ください。
- 利用者へはダウンロードではなく、郵送によってのみデータ提供を行う。
(※データ提供方法については、「寄託の手引き」7ページをご参照ください。)
- 当面提供しない。（整理、保存により個票データの散逸を避ける。）
(※保管を目的とした寄託については、「寄託の手引き」9ページをご参照ください。)

※ 次頁の「2 調査報告書の取扱い」にも記入をお願いいたします。

2 調査報告書の取扱い（を付けて下さい。）

寄託した調査報告書を二次分析の資料として用いる際の複写については、

- 全文を認める。
 著作権法の範囲内で認める。
 その他（複写条件： _____）

3 個票データの整理、保存

アーカイブは、寄託された個票データを整理、保存する。また、関係資料を基に調査情報（概要・調査票）をまとめる。

アーカイブは、個票データの秘密を保護するために、個々の調査対象が特定されることのないよう十分に注意する。このため、アーカイブは、寄託者と適宜協議の上、必要に応じて個票データの地域区分のまとめ上げなどの必要な秘匿措置を講じる。

4 調査情報の公開

アーカイブは、整理した調査情報（概要・調査票）をSSJDAウェブサイトに公開する。（個票データを「当面提供しない」は、この処理は行わない（以下同様）。）

5 個票データの提供

(1) 利用申請の受け付け

アーカイブは、学術目的での二次分析を希望する大学又は研究機関の研究者、若しくは教員の指導を受けた大学院生（以下、まとめて「利用者」という。）から、利用申請書を受け付ける。

(2) 提供の承認

1に規定する個票データ提供の承認については、寄託者又はアーカイブが受け付けた利用申請書を審査することにより、その可否を決定する。

(3) 提供

アーカイブは、個票データ提供にあたり、利用者に必要な指示を与えることにより個票データが適正に利用されるよう努める。

6 論文の提出

利用者が個票データの二次分析を論文等に発表した場合、アーカイブは、利用者に当該論文の提出を求め、提出された論文1部を寄託者に転送する。

7 その他（必要があれば、その他の条件を記載してください。）

(_____)

寄託事務を担当される方の連絡先をご記入ください。

所属 _____

職名 _____ 氏名 _____

〒 _____

Tel _____ Fax _____ E-mail _____

- ※ 寄託事務のご担当者連絡先は、寄託データの利用報告・論文提出があった際の郵送先となります。
 - ※ 「1 個票データの扱い」で「寄託者が承認を行う」の場合、利用申請毎に寄託者による提供承認が必要となります。その際の利用申請情報の送付先となります。
 - ※ アーカイブでは、ご寄託後、提供するデータと公開する調査情報（概要・調査票）を作成します。データ整理に関するの問合せ、提供データのご確認をお願いさせていただきます。
 - ※ 同調査データの他機関への寄託をご検討の際は、必ず事前にSSJDAまでご相談ください。
- 担当者が変更される場合は、ssjda@iss.u-tokyo.ac.jp までご一報くださいますようお願い申し上げます。